α.Station FM KYOTO 89.4

ROOTS OF DJ

辻野ヒロシ

ジュリアナテクノもU2も、生真面目に付き合ってます

「超！緊張しぃなんで」準備は万端に。入りはオンエア4時間前で万全の仕込み。とはいえ、「生感覚を大事に」したくて選曲は当日

DJのルーツを探るインタビュー2回目は、月～木のオビ番組から毎週金曜の洋楽番組の担当になった辻野ヒロシさん。「念願だったディレクターを兼ねた（＝ワンマンDJ）理想的な番組をオビでやらせてもらえて、正直なところDJとしての目標は達成しちゃったんで（笑）」という彼は、週一ペースになったことで、リスナーのリズムに合わせた、落ち着いた番組づくりに注力しているという。

音楽に目覚めたのは、高校時代にヘヴィリスナーだった地元、三重県鈴鹿市で聴いたFM番組がきっかけ。流れていたのは、「ジュリアナテクノ的なハードなダンスミュージック。アーティスト名もあんまり憶えてないし、今では絶対聴かないような音楽です（笑）」。名古屋圏のディスコ／クラブが派手なのは知られた話。夜な夜な繰り出し、リスナーダンスパーティにも参加した。音楽を聴き込むというより、身体で感じていたようなものだが、TMNの楽曲がダンサブルな洋楽でカヴァーされているのを見つけると、それが誇らしくもあり、やっぱり洋楽が格好良いと思いもした。そして、好きが高じて目指したのが、ミュージシャンでもディスコの黒帯でもなく、ラジオディレクターだったのだ。

「DJになる」と言葉にすることで自らを追い込んでいた留学時代。帰国後、その夢を現実にしないと「彼らに合わせる顔がない」と思い、今がある

大学時代はDJの学校を卒業してディレクターとしての就職先を見つけようとしていたが、その後は、DJ一本に方向転換。DJになるため「音楽を聴きまくり、映画を観まくり、コンサートに行きまくった」うえ、さらに引き出しを増やすために卒業後1年間渡米。「今でも年に2～3回は海外に行くのが信条。洋楽を紹介するからには、肌で感じることを何より大事にしたい。イメージだけじゃ薄っぺらいから」。

アメリカで惹かれたのは、アイルランド出身ながらアメリカで絶大な人気を誇るU2のサウンドだった。「彼らが他のアメリカ人アーティストよりもアメリカ人に愛されているのは、アメリカに憧れて外から入ったからこそ見えるものがあったから」ではないかと分析する。彼らの境遇を「アメリカは第二の故郷」とまで思っている自分に投影しているのか、はたまたどこかにプロテスト魂を持っているのか。

ディスコに夢中だった彼に「踊るだけが音楽じゃないんだ」と知らしめたlululは、ジュリアナでもかかるハウス系のメロディアスなダンスミュージック。「渡米してから好きになった」アーティストからU2を

いずれにせよ、人種や思想、メッセージ性の強いアーティストや楽曲に真正面から向き合う姿は、生真面目な辻野さんに似合っているし、そういった「真摯な音楽」がルーツであるのも分かる気がする。

もっとも、取材日前日にタイから帰国したばかりだった彼が、「今年中に絶対行きたいのはアイルランド」で、「見て、感じたことを伝えたい。そうすれば、リスナーもよりリアルにU2の音楽を感じてくれるはず。自分がなぜこんなにもアイルランドの曲が好きなのかもっと深く探りに行きたい」と、自覚はあんまりないようだけれど…。

MOONLIGHT WALK FRIDAY
(毎週金曜日20:00～22:00)

洋楽たっぷりの2時間中、その週の洋楽ニュースを振り返りつつ、週末＆翌週のライブやイベントの情報も盛り込むアクティブな番組。「仕込みが嫌い」で提案したサイレントリクエストで、「リスナーさんとの1対1のつながりを大事にしたい」という。